



縄文時代早期 (約 11,200 年前～約 7,000 年前)

定住が始まりムラが形成された

東日本各地に定住集落^{ていじゅうしゅうらく}が出現し始める。早期後半になると温暖化^{おんだんか}とともに海水面が上昇する「縄文海進」が進み、海辺や湖岸には貝塚集落^{かいづかしゅうらく}が出現。釣針^{つりばり}やヤスを使用し、エゴマ、ヒョウタン、アサ、豆類などの栽培を開始する。早期末からイヌを家畜化^{かちくか}。早期前半は1軒から数軒程度のムラで、早期後半から前期にかけてやや大きなムラを形成し、大型住居も建てられるようになる。雪の多い地域に大型住居が多いことから、冬場の共同作業所・共同生活の場などと考えられている。

おもてだて

表館(1)遺跡 縄文時代早期中葉から後葉 (約 9,800 年前～約 7,000 年前)

末葉に大型住居が出現。共同作業場か？



第108号復元住居

- 遺構 ・ 竪穴住居跡 2 3 軒 (内、早期中葉から後葉は 1 6 軒)
 - ・ 早期中葉から後葉の土坑 8 8 基、集石遺構 6 基、剥片集積遺構 3 か所^{はくへん}
 - ・ 後葉の表館 X 群期の貝層小ブロック 1 8 か所 (鹹水性・海水のアサリ、ハマグリが主体)^{かんすい}
- 遺物 ・ 10 の層位的に出土した土器 (白浜式・物見台式・吹切沢式・表館 IV 群・ムシリ式・表館 VI 群・^{あかみどう}赤御堂式・^{わせだ}早稲田 5 類・表館 IX 群・表館 X 群・^{なかちやろ}中茶路式)
 - ・ 石器：石鏃^{せきぞく}、石槍^{いしやり}、石匙^{いしさじ}、石篋^{いしべら}、石錐^{せきすい}、不定形石器、トランシェ様石器、^{だせいせきふ}打製石斧、^{ませいせきふ}磨製石斧、^{かんじょうせきふ}環状石斧、^{いしすい}石錘、^{こうまきるい}敲磨器類、^{いしざら}石皿、^{だいせきるい}台石類 ※トランシェ=切り分け (仏)
 - ・ 黒曜石石器 (秋田県男鹿産、北海道十勝産・赤井川産)^{こくようせき}

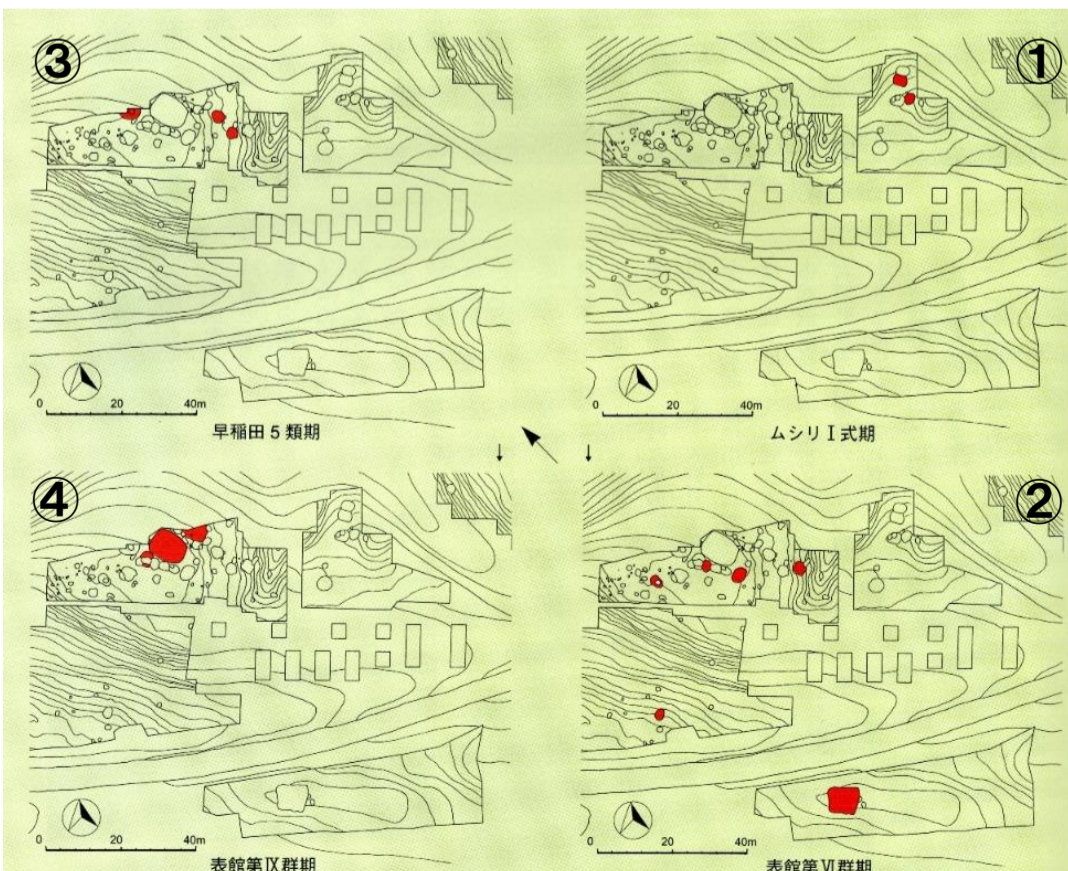


図 I-11 住居跡の移り変わり

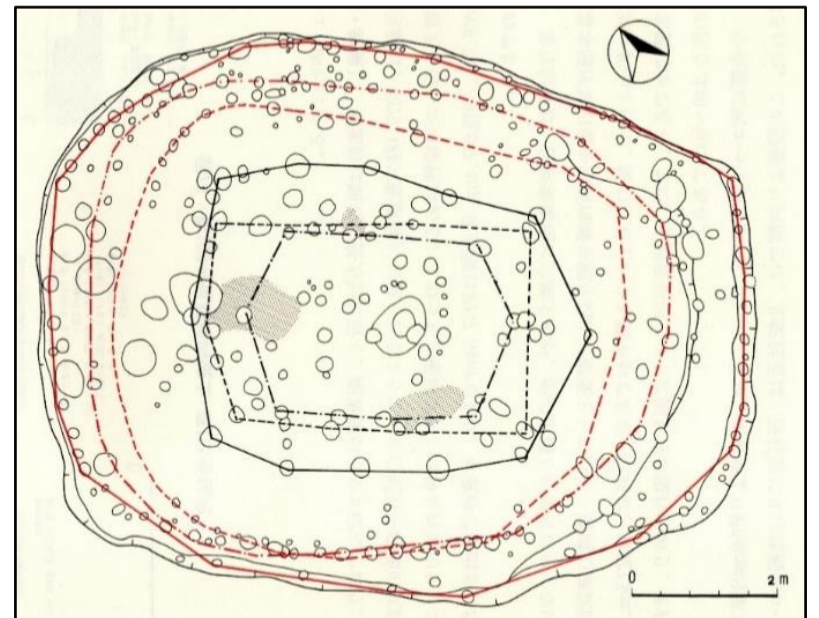


図 I-12 第108号住居跡：大型住居跡

3回にわたって建て直し、大型化している。集会所や作業所、あるいは、共同住居と考える説がある。

ちとせ **千歳(13)遺跡** 早期中葉 (約 9,800 年前～約 8,400 年前) **土坑と捨て場の遺跡** どこう

物見台式土器は貝殻腹縁文と沈線文によって幾何学的文様で、関東地方の田戸上層式や北海道の中野 A 式などに対比しうるものである。

- 遺構 ・ 住居跡なし
・ フラスコ状土坑 1 基、円筒状土坑 1 基、溝状土坑 1 基、早期中葉の捨て場
- 遺物 ・ 土器：白浜併行式土器 3 3 個体、寺の沢式土器 2 個体、物見台式土器 1 6 個体
・ 石器：石鏃、トランシェ様石器、不定形石器、打製石斧、磨製石斧、石錘、磨石、三角柱状磨石、凹石、環状石斧 ※トランシェ=切り分け (仏)



図 I-13 地図：千歳平(13)遺跡



物見台式土器

かみおぶち **上尾駁(2)遺跡** 早期中葉 (約 9,800 年前～約 8,400 年前) **中葉の小さなムラ**

早期中葉の小さな集落。湧水の側に住居を寄り添うように建てられている。約 100m から 140m 離れたところに土坑が二つ。



図 I-14 地図：上尾駁(2)遺跡



図 I-15 白浜式土器

- 遺構 ・ 白浜式期の竪穴住居跡 2 軒 (長径約 6m の不整形円形。炉がない。水から 5m 離れて) ・ 土坑 2 基 (直径約 1.3m の円形)
- 遺物 ・ 白浜式土器、物見台式土器、石鏃、不定形石器、三角柱状磨石、石棒

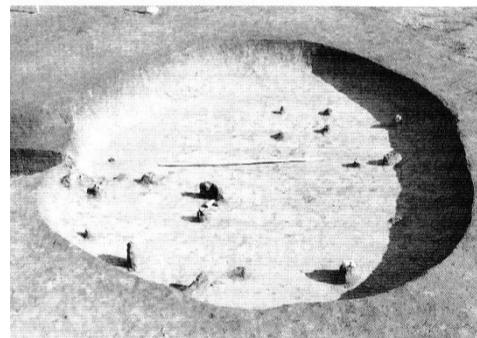


図 I-16 竪穴住居跡

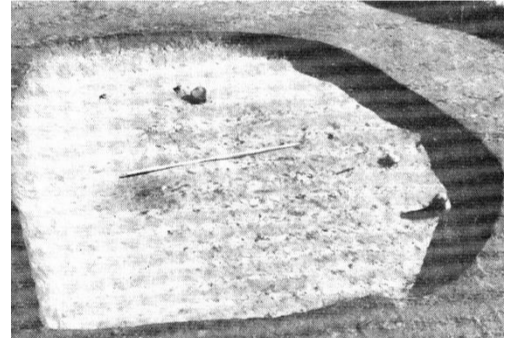


図 I-17 竪穴住居跡

しんなや **新納屋(2)遺跡** 早期中葉と後葉 (約 9,800 年前と約 7,000 年前) **吹切沢式期の集落跡** ふっきりざわ

県内でも数少ない吹切沢式期の集落跡や吹切沢式の内容を知る重要な土器が出土。

- 遺構 ・ 竪穴住居跡 3 軒 (中葉の吹切沢式期 2 軒のうち 1 軒に地床炉あり。後葉の早稲田 5 類期 1 軒) ・ 土坑 26 基、溝状土坑 1 基、石錘集積遺構 1 基
- 遺物 ・ 石器：石鏃、石槍、石匙、石篋、搔器、打製石斧、磨製石斧、石錘、磨石、叩石、石皿など
・ 土製品：中葉の円板状土製品、土器片錘



図 I-18 地図：新納屋(2)遺跡

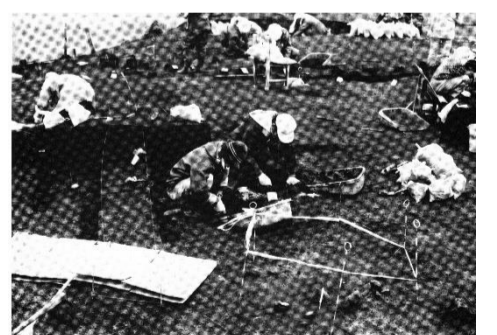


図 I-19 新納屋(2)遺跡の発掘現場



図 I-20 新納屋(2)遺跡の住居跡

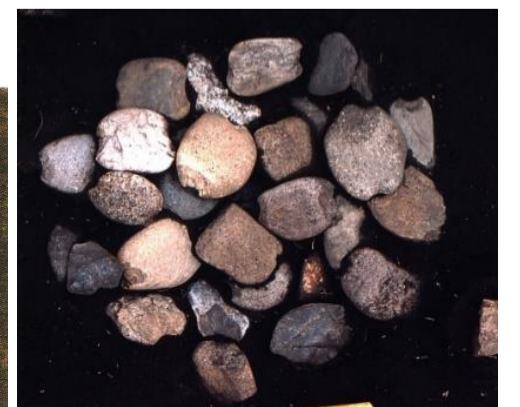


図 I-21 石錘集石遺構

大型住居跡が見つかる

1 縄文海進がはじまる

早期になると温暖化が進み、縄文海進が起きた。入り江にはたくさんの魚介類がいて、豊かな自然が出現した。太平洋側の入り江には、アワビやハマグリなどの貝殻や、魚や動物などの骨を捨てた貝塚が出現した。

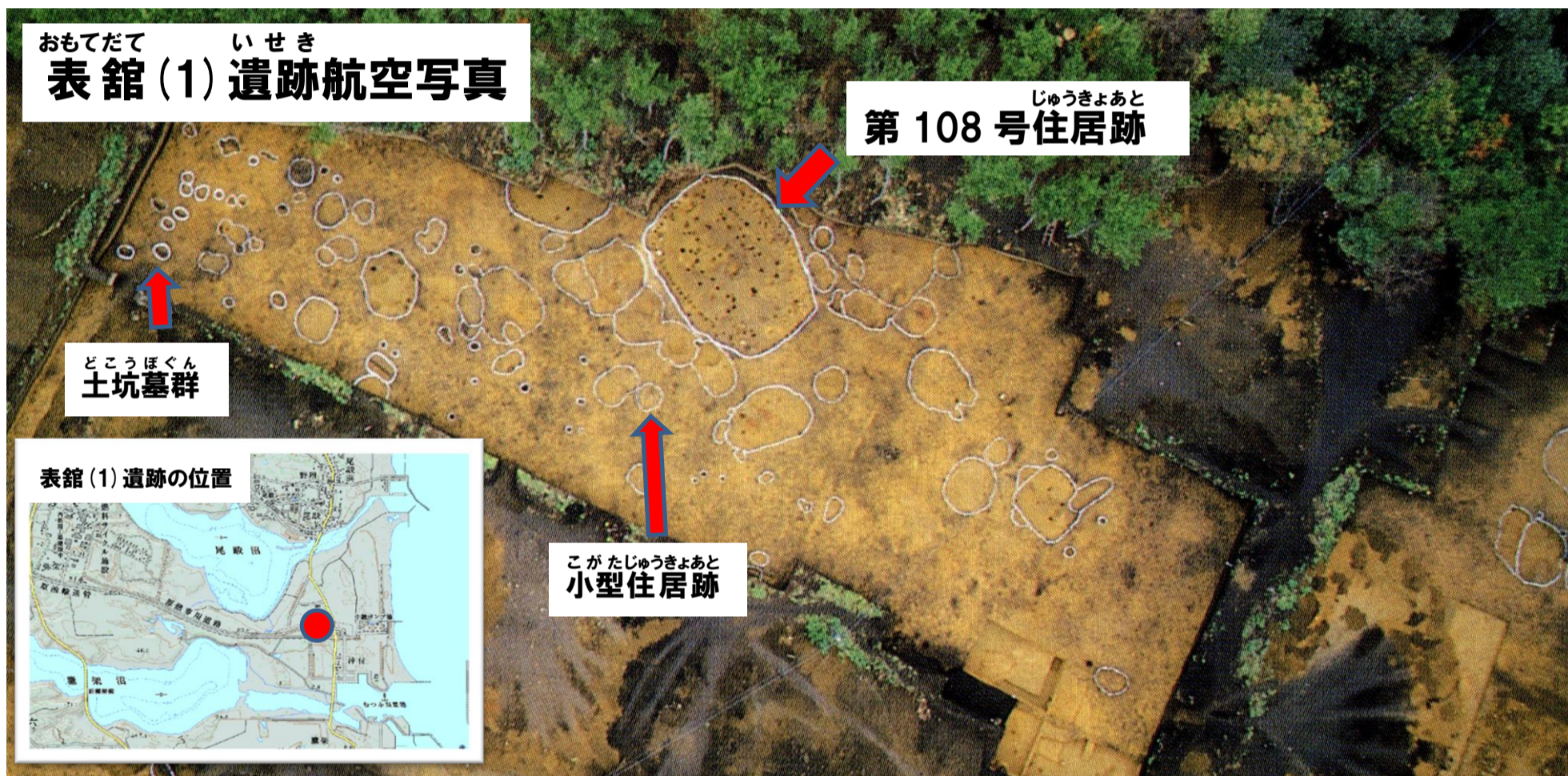


図II-2 表館(1)遺跡 貝塚調査

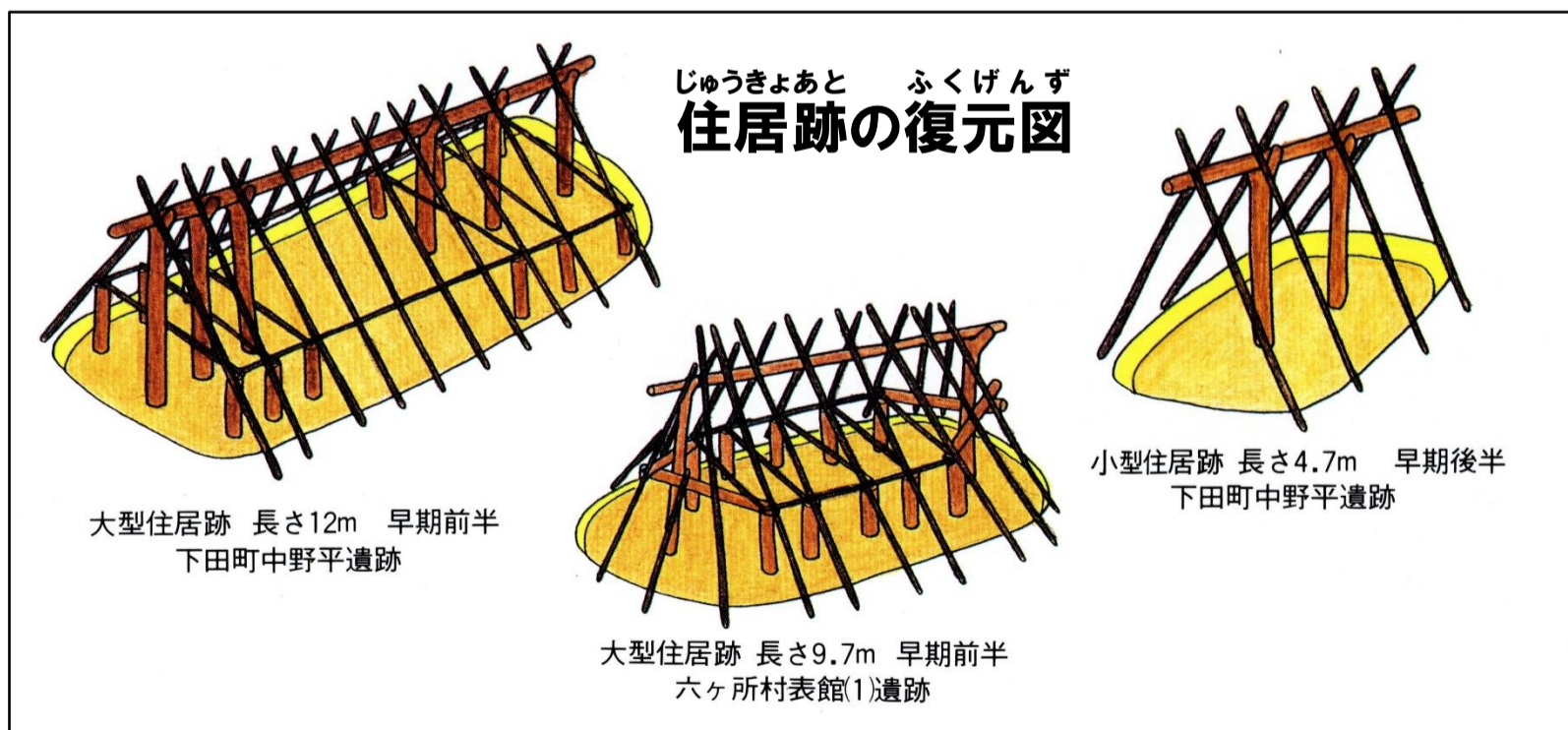


2 大型住居跡が見つかる

早期のムラは、3軒から10軒前後で構成されていたようだ。狩猟・採集・漁労などをして、移動する生活をしていたと考えられているが、大型住居跡が見つかったことから、そこで長い間生活が行われていたのではないかと考えられる。表館(1)遺跡第108号住居跡は、何度か増築された跡が見られる。



図II-3 表館(1)遺跡 地図と上空写真



図II-4 大型住居の復元図

おもてだて 表館(1)遺跡の住居の家屋材は、サクラ・ヤマグワ・コナラ・カツラケヤキなどが使われていることがわかっている。



定住化が進み、ムラが形成されていったか!?



縄文時代前期 (約 7,000 年前～約 5,500 年前)

円筒土器をつくった人たち

ますます温暖化による縄文海進が進み、標高約 6 m の高さまで海水が侵入し、多くの入り江や湾がみられ、水産資源が豊かになる。野山には、ブナ・ナラなどの落葉広葉樹の森が茂っていた。

縄文時代前期から中期にかけて、日本列島に 9 か所の地域的文化圏が出現する。前期半ばから中期半ば過ぎまで本県を中心に円筒土器文化が栄える。円形や楕円形の竪穴住居が多く、長軸が 10 m を超える大型住居もあった。地床炉が多く、柱は 1 本から 10 本以上とさまざま。10 軒前後のムラが形成される。約 6,000 年前に十和田火山が大噴火(中掇火山灰)、日本の中央では環状集落(墓地・広場を家が囲み、外周に貝塚・捨て場)が発達する。

おもてだて

表館(1)遺跡

前期前葉 (約 7,000 年前～約 6,500 年前)

せんとう

尖頭土器から円筒土器文化へ

おしがたもんどき

押型文土器文化が早期から続き、前期前葉までが主体の遺跡。

- 遺構
 - 前葉の表館式期の竪穴住居跡 1 軒 (直径約 3m 円形、炉はない)
 - 早稲田 6 類期の炉 1 基 (直径約 65 cm の大きな地床炉、住居跡か?)
- 遺物
 - 土器：主体は前葉の土器で、長七谷地Ⅲ群、表館式 (表館¹⁰群土器・¹²群土器・¹³群土器)、早稲田 6 類土器、北海道東部の押型文土器も出土。後葉の円筒下層 c、d 式が少量出土。
 - 石器：石鏃、石槍、石匙、石篋、不定形石器、打製石斧、磨製石斧、石錘、磨石、叩石、台石など。
 - 土製品：表館式と早稲田 6 類土器片を用いた土器片錘



表館(1)遺跡出土
表館式土器



表館(1)遺跡出土
早稲田 6 類土器



泊(1)遺跡出土
円筒下層 c 式土器



泊(1)遺跡出土
円筒下層 d1 式土器



泊(1)遺跡出土
円筒下層 d2 式土器

縄文時代前期の中ごろになると円筒土器が出現。粘土に植物の繊維を混入し、巻き上げて作り、全体に文様をつける。水漏れを防ぐため内面に化粧粘土を貼り研磨する。石斧や石鏃など石器類も多くなり、狩りや漁労が盛んになる。

上尾駁(1)遺跡 前期後葉 (約 6,000 年前～約 5,500 年前) 円筒下層 d 1 式期の集落跡

前期後葉の円筒下層 d 1 式期の集落としては、初めて調査が行われた遺跡である。

1 遺構 ・ 竪穴住居跡 17 軒 (後葉円筒下層 d 1 式期：直径約 5m から 13m を超える大型まで)

・ 土坑 26 基

2 遺物 ・ 土器：前葉の表館式、早稲田 6 類、後葉は、円筒下層 c、d 1 式。

・ 石器：石鏃、石槍、石匙、石篋、石錘、搔器、不定形石器、磨製石斧、半円状扁平打製石器、磨石、凹石、叩石、軽石製品など

・ 土製品：早稲田 6 類の土器片錘が少数出土。



図 I-22 地図：主な遺跡

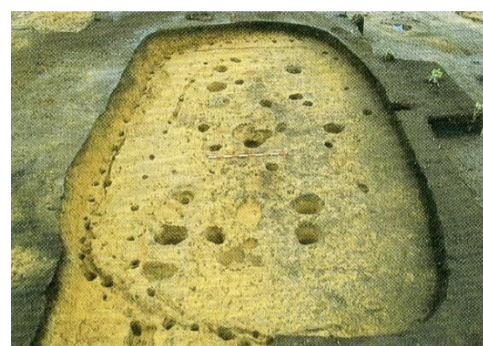


図 I-23 地図：大型の竪穴住居



半円状扁平打製石器

発茶沢(1)遺跡 遺構はなし。前期前葉の土器が多く出土。石器は三角柱状磨石や叩石が出土。早稲田 6 類の土器片錘 (おもり) 43 点が出土。

家ノ前遺跡 早期後葉から前期前葉の葬制を考えるうえで重要な遺跡

前葉の早稲田 6 類期 1 軒、長径約 2.8m の楕円形で、西寄りに地床炉がある。墓の可能性のある土坑 4 基が出土 (表館式期 1 基、早稲田 6 類期 3 基)。副葬品として石器や礫が出土。

大石平(1)遺跡 前期前葉と後葉の土器が出土。前葉は、長七谷地 III 群、表館式、早稲田 6 類土器、後葉は円筒下層 d 式が出土。

上尾駁(2)遺跡 前葉の早稲田 6 類期の竪穴住居跡 2 軒、土坑 2 基が出土。第 30 号土坑から早稲田 6 類が出土。遺物は、石篋・磨製石斧が出土。

鷹架遺跡 遺構外から早稲田 6 類土器出土。



図 I-24 地図：鷹架遺跡

幸畑(7)遺跡 遺構なし。前葉の早稲田 6 類が出土。格子状押型文土器も出土。

泊(1)遺跡 泊小学校建設用地から、土器片が多数出土。前期後葉の土器が多い。



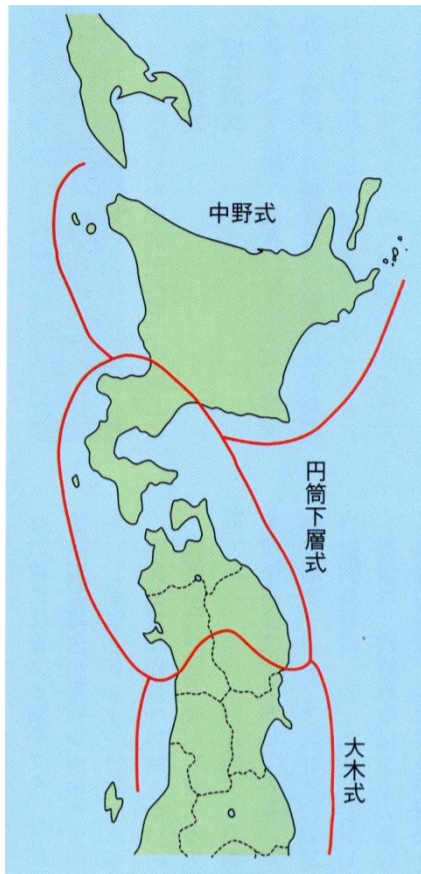
図 I-25 地図：泊(1)遺跡



泊(1)遺跡の土器・石器出土状況

円筒土器を作った人々

1 前期後半から円筒土器文化が開花



図II-5 縄文時代前期の土器文



早稲田6類土器



円筒下層c式土



円筒下層d2式土



縄文時代前期になるとますます温暖化が進み、多くの入り江や湾が見られるようになる。前半は、いろいろな種類の縄文施文の土器が発達し、後半は円筒下層式土器群と呼ばれる平底の深鉢の円筒土器文化が開花する。

- ① 表館Ⅹ群式土器出土。(発茶沢 (1)、表館 (1)、幸畑 (7) 遺跡)
 - ② 表館Ⅺ群式土器出土。(表館 (1))
 - ③ 表館ⅩⅢ群式土器出土。(発茶沢 (1)、表館 (1) 遺跡)
 - ④ 長七谷地Ⅲ群式土器出土。(表館 (1))
 - ⑤ 表館・芦野Ⅰ式土器出土。(弥栄平 (4)、発茶沢 (1)、大石平 (1) 遺跡)
 - ⑥ 早稲田6類土器出土。(上尾駮 (1) A・C地区、幸畑 (7)、上尾駮 (2) A地区、鷹架、大石平遺跡)
- ～ 円筒土器文化が開花し、平底の縄文土器が一般化する ～
- ⑦ 円筒下層a式・b式土器出土。(坊主沢、唐貝地貝塚)
 - ⑧ 円筒下層b式土器出土 (上尾駮 (1) C、中志貝塚)
 - ⑨ 円筒下層d1式土器出土 (上尾駮 (1) C、唐貝地B)
 - ⑩ 円筒下層d2式土器出土 (上尾駮 (1)、富ノ沢 (2))

2 なぜ円筒の形なのか？円筒土器を持った人々はどこから来たのか？

縄文時代中期の8つの土器文化圏



図II-6 縄文時代中期の土器文化圏

北東北は、^{らくようこうようじゅりんたい}落葉広葉樹林帯 (温帯) に属し、食料となる^{けんがるい} ドングリやトチの実など堅果類が全国でもっとも豊富な地域で、あわせてサケ・マスなどの^{かんりゅう} 寒流系の水産資源も豊富な地域。縄文時代の前期後半から中期にかけて出現した円筒土器は、粘土に植物の繊維を混入し、巻き上げ、全体に^{みずも} 文様をつけ、水漏れを防ぐため内面に化粧粘土を貼り研磨していた。食材を長時間煮炊きするような使われ方をしたと考えられる。

また、中国^{りょうが} 遼河地域、朝鮮半島北部からアムール川流域、^{えんかいしゅう} 沿海州にかけて^{こうはんい} 広範囲の約8千年前から約4千年前までの^{りょうが} 遼河文化で、円筒土器が発見されている。ハプログループNを担い手とする遼河文明との関連が指摘されている。石器や^{がんぐう} 竪穴住居の形や構造、土偶や岩偶など精神文化が、^{ぎょうろ} 漁労では^{かいかしきりとうもり} 開窩式離頭銛を用いた^{かいじゅうほかく} 海獣捕獲が、そして、^{こくようせき} 黒曜石やヒスイが大量に出土しているのも、共通している。

環境の違いが、各地域の特色ある文化圏をつくった